

平成 22 年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201916		
法人名	社会福祉法人弘友会		
事業所名	グループホーム サン・フラワー		
所在地	青森県弘前市向瀬字豊田320-1		
自己評価作成日	平成23年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.aokaigoivouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0270201916&amp;SCD=320">http://www.aokaigoivouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0270201916&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成23年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者を良く理解し、信頼関係を築き、理念に基づいた「あずましく」過ごせるよう思いやりをもってケアを進めてきています。また個別ケアを重点に取り組んでいます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者を中心として入居者の暮らしについて熱心に検討され、支援している。職員の声掛けも自然に行われており、家庭的な雰囲気、入居者の表情も明るい。又、「ふるさと訪問」と名付けて、入居前の馴染んだ地域の訪問など計画し、生活に楽しみを持ってもらえるように工夫されている。運営推進会議においても参加への積極的な声掛けや、事前の細やかな資料の作成など有意義な会議が開催されるよう努力されている。家族からの意見や希望などはその都度書類としてまとめられ、職員全員ですぐに共有できる体制もあり、入居者一人ひとりの記録においても書式を独自に工夫されて細かく記入されている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念、地域密着サービスの理念を職員全員で毎朝申し送り時復唱し、その日のケアに活かし会議やカンファ等で意義を確認し合い、また地域との触れ合う場を大事にし実践に繋げている。	日頃から、基本理念にある「あずましく」ということをそれぞれの入居者にとってそれがどういことかと皆で話し合っている。また、毎朝理念を復唱し、周知徹底に努めている。地域とのつながりについても内容に掲げられて必要性を認識されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元地域の一員として行事(交通安全教室、北の祭り、餅つき大会等)や地域活動等に進んで参加した近隣の施設間交流、園児達の交流も活発で散歩に行ったり、行事に招待したりされたり交流を図っている。顔なじみも出来ている。	地域の町内会や老人クラブと積極的につながりを持ち、認知症の理解をしてもらいながらホームの周知を図っている。又、入居者が地域の行事に自然に参加できるよう支援されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は総会や会合に出席し信頼関係を築き、サンフフラワー祭りの時は地域の方々にも参加していただき、一緒に楽しみ認知症の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しホームでの取り組みについての意見交換、また地域の情報を得ることでサービスの向上につなげている。運営推進会議で取り上げられた検討事項等は職員で話し合いの場を設けよりよいサービス提供に努めている。	写真等を添付した分かりやすい資料を作成し、出席者と話題を共有出来ておりサービスの向上に繋がっている。参加者も駐在員や消防団などにも声をかけるなど充実した内容となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連帯を意識し、電話、来設にて色々な相談をして他グループホームの良い情報もいただきながら、質の向上に向け取り組んでいる。また生活保護の方もいるので、月1回は必ず市役所を訪問し情報交換を行っている。	行政との連携が大切であるという認識が強く、積極的な情報のやり取りが行われている。又、市役所への訪問も管理者を中心に頻繁にあり、相談などされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を開き職員の共有認識を図っている。全職員が身体拘束をしないケアを心掛け、玄関の施錠は、夜間のみである。身体拘束廃止のマニュアルも作り、月1回の状態報告や意識付けも行っている。	職員間で拘束がどういことなのかと周知の徹底に努め、毎月職員が当番制で全入居者一人ひとりについての思いを書き、記録として残しておられ、精神的な拘束についても対応がされている。又、日中の入り口等は解放されており、見守りにより安全が保たれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は研修会に参加し、知識の習得の勉強会を開催し高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。また職員同士で入浴時や排泄時、異常がないか観察を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は権利擁護についての重要性を認識し、研修に参加したり勉強会を開いたり知識の習得に努めている。また必要に応じて、家庭用配布のマニュアルを作り、対応できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をとり丁寧に説明し理解、納得出来るよう図っている。特に利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連帯体制、サービス提供体制強化について詳しく説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会等にご家族の要望を聞き又何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意し、日々のケアに於いて利用者の意見や訴えに積極的に耳を傾け、職員同士で改善に向け連帯し今後の運営に反映させている。	意見箱が設置されており、より家族の意見を反映させる為に相談時の内容を対話記録という形で文書に残し、全職員が情報を共有できるようにしている。それを元に要望等を把握し、サービスに反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日朝、夕の申し送りやカンファレンス、月1回の会議等で意見を聞く様になっている。また日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、聞き出したり、活発な意見交換がなされ施設運営に繁栄している。	日頃から思いや意見を話しやすい職場の雰囲気作りに努めている。又、法人として年2回の人事考査で、職員が意見を出す機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、個々の努力や実績を把握し、モチベーションが下がらない様、職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修は母体施設も含めて交替で参加し毎月全体で講習会を開催している。またグループホーム内でも、学習係を決め、ケアの向上の為勉強会を開いたり、調べた物の回覧を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との行事に招待されたり、当施設の行事に招待したり、合同で行事したりその時意見交換や情報交換、及び他ホームの見学をするなどしてサービスの質の向上に努めている。また併設施設内の部署との交流も盛んに行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用にあたっては相談があった時は必ず本人に会って心身の状態やや本人の思いに耳を傾け職員は本人が受け入れてもらえる関係づくりを行い安全確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の際、ご家族から不安になるような事や、生活歴、思いなど出来るだけお話しいただき入所前に理解を深められるように努め、また話しやすい雰囲気作り工夫している。その中で事業所の対応についても話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の持っている力を引き出せる様に、一緒に掃除したり、洗濯物を畳んで頂いたり、また行事やレク活動を通していろんな発見をし、喜怒哀楽を共に感じ暮らしの中で支え合える関係作りに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添い、日々の暮らしの出来事や気づきの情報の共有に努め、またイベントの時には家族にも呼びかけ、ご家族と一緒に楽しんで頂き、本人を支えて行くための協力関係が築けるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと訪問と称して知人・友人を訪ねたり、兄弟に手紙を出したり、自宅の近所を散歩したり忘れないように工夫している。	「ふるさと訪問」と名付けられたホーム独自の企画を作り、入居者が以前からの馴染みの場所や人との交流ができるように支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話しを聞いたり、相談に乗ったり、皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面作りをするなど、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等は、面会や見舞いに行き家族の相談や支援を行なっている。他施設に移られた方には、生活環境、支援の内容等の情報提供し、きめ細かい連帯に心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人としっかり向き合い話を聴き把握に努めている。言葉や表情から真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。	入居者と向き合い傾聴し、表情等からも思いや意向を汲み取るように努めている。また、家族や関係者の方からの情報もまじえ、記録されており、思いや意向を検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談員、本人やご家族からの情報により生活歴、馴染みの暮らし方の把握に努めている。今までと同じ様に生活できる様な支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の健康観察を行い、心身の状態を見極め、個別ケアを重視し、有意義な一日が過ごせるよう支援し、夕方に本人への働きかけ方を含めて、確認、記録するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の思いを第一に、毎日のミーティングや評価を含め職員全員で意見交換しその人らしい生活が送れるよう介護計画を作成している。状態変化のある時は本人が暮らし易いように本人、家族、関係者と話し合いの場を新たに設け意見交換し作成している。	本人や家族との普段からの会話や状況から個別に記録された内容を基に、カンファレンスを開催し評価を行っている。3ヶ月毎にサービス計画書を見直し、その都度家族に確認してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録(職員の気づきや利用者の状態変化)、健康チェック表、業務日誌に記載し、情報の共有を徹底している。個別記録を基に状態把握を行い介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけ個々の希望に添える様、家族とも相談し柔軟な支援が出来るようにしている。通院や送迎の支援、併設施設のトレーニングマシンやカラオケ、慰問行事等の交流、サービスの多機能化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーとして町会長、民生委員、警察や地域包括支援センター、また新に社会福祉協議会も参加するようになり周辺情報や支援に関する意見交換が活発であり案内要項も必ず持参し、情報交換を行い地域活動にも参加する様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を重視している。契約時、協力病院の話をし、納得を得られた時、受診するようになっている。それぞれのかかりつけ医と信頼関係を築き適切な医療を受けられるように支援している。受診結果は必ず電話等で連絡し情報の共有をしている。	契約時に本人及び家族と相談し、希望するかかりつけ医があれば継続して受診できるように支援されている。受診時の内容についてはその都度家族に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約を結び24時間連絡可能な体制をしており週1回の来設と週1回の電話を必須とし入居者の状態報告、相談、助言、対応を行っている。少しの変化でも気付いた時、携帯電話等で看護師に連絡し指示を仰ぎ適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際主治医、ご家族、病院の関係者と話し、病院の方からも協力を得て情報交換を行い早期に退院できるようにしている。面会に行ったり、家族と連絡を取り合ったり、退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を作成。入居者、家族や本人話し合いを持ち、方針を決めているが、重度化した利用者には、再度意向を確認している。管理者と職員と家族と本人とで話し合い、出来る事、できない事を一緒に考え、本人主体の前向きな話し合いが出来るようにしている。	契約時にホームとしての方針を説明し、重度化した場合の対応について指針を示している。ターミナルケアについても必要な体制を整えている。その際はあらためて家族と話し合い、医療関係者と話し合いをもち対応を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、母体施設での救急法の研修を行っており、職員は積極的に参加し技術習得に努めている。また緊急時対応マニュアルを作成し、すぐ対応出来るようにわかりやすい物になっている。24時間看護師への連絡体制も整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、併設施設と合同の避難訓練を行っている(うち1回は夜間想定)職員は利用者が安全に避難できるよう技術を得ている。隣や向いの施設の協力体制もお願いし了解を得ている。運営推進会議でも取り上げ地域の協力を呼びかけている。	年2回、併設施設と合同の避難訓練を通して、職員、入居者に火災や災害時の対応を周知徹底している。また、消防団へも参加を呼びかけ、地域との協力体制もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他の入居者や人前で本人を傷付けない様に言葉かけに配慮し、さりげないケアに心掛けたり、また自己決定しやすい言葉掛けをするよう努めている。また個人情報の守秘義務について理解し、責任のある取扱いをしている。	一人ひとりの精神的な状況から対応方法を検討し、個別の対応がされている。声掛けも一律に決めるのではなく、入居者によってより親しみやすく、本人が安心できる呼び方など検討され、実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	相手が理解しやすい言葉掛けを意識し表情や動きをよく見ながら本人の希望に合うよう耳を傾け自己決定しやすい支援をおこなっている。本人がしたい事や思いが素直に言えるような雰囲気作りにも気を配っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調を配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、本人が過ごしたいように過ごしていただき、出来るだけ個性のある支援を行っている。ただ一応の生活リズムがある為、その時々声掛けは行い希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出、通院時希望に添い、職員と一緒に衣類を選んだり、化粧を手伝ったり、身だしなみを整える支援をしている。また毎週木曜日「おしゃれの日」と決め希望を聞きいつもより入念の髪や肌の手入れや化粧、洋服など楽しんで頂きその人らしさを引き出す支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	母体施設での調理となっている為食事が楽しみになるように盛り付けや雰囲気等に気を配っている。食べたい物の希望がある時は、行事の外食に入れたり、個別の買い物で対応している。可能な入居者には配、下膳をお願いし、片付けも疲れていない日に職員と一緒にやっている。	母体施設で調理しているが、茶碗や箸など個人専用の物を使い、自分の御膳だという事を理解してもらっている。食事中はいろいろな話題を提供しながら職員も一緒にいただき、さりげなく見守りながら楽しい雰囲気を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量、水分摂取量を記録し過不足のない様に気をつけている。個々に合わせて食べやすい大きさや刻みで対応し、また水分の取りたがらない利用者には、ゼリー対応を行い、アレルギーのある人は別メニュー対応、また心臓肥大の人には塩分調整を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしていただいている。自分でできる方には声掛け見守りし、できない方には仕上げを行ったり、義歯の洗浄介助を行い嚥下障害による肺炎の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を大切にしている。リハパンや尿とり使用者には排泄パターンを把握しサインや表情で読み取りトイレへ誘導している。	本人の動きや腹部の触診、トイレの状況など普段からの観察により、尿意や便意のサインを汲み取り、排泄介助につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い便秘の早期対応に努め、牛乳やヨーグルト、腹部マッサージの対応を行っている。また便秘予防の為毎日の歩行練習と水分補給の徹底を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	基本的に週3回の入浴としている。バイタル測定後体調をみて併設施設の温泉を利用している。ゆったりくつろげる支援に心掛けている。グループホーム内にも個室があり希望により対応している。シャワー浴、足浴も対応している。	週3回、併設施設の温泉に入浴している。本人の申し出や身体状況により、ホーム内の浴室でも行っている。又、希望があれば夜間や毎日の入浴についても対応できる体制がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動に重点を置き生活リズムを整えるよう努めている。午前は個別のリハビリや趣味、本人のやりたい事に重点を置き、午後はレク活動、運動や体操を取り入れ、夕方から穏やかに安心して過ごしていただき安眠に勤めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容は職員全員で理解出来るように処方箋や薬表を綴っており、内服変更時はその都度、業務日誌またケア記録に記述し朝、夕申し送り時必ず状況報告する。服薬時は本人に手渡し、きちんと服用できているかの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る範囲で得意なもの、やりたいもののお手伝いをお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている。時には、職員と一緒に楽しみを繋げている。お手伝いをお願いすることにより利用者の顔の表情がイキイキとしている様子が伺える。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を見て対応するように努力している。ただ緊急での外出等は勤務体制あり難しい時もある。外気にあたるように、庭の散歩や屋上へ行っている。また家族の協力もお願いしている。	日光にあたる機会が必要と考えており、日頃からホーム周辺を気軽に散歩できるような環境と見守りの体制がある。又、月1回はショッピングやドライブなども計画されており、入居者の楽しみとなっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	地域交流でのお祭りやドライブ等少しの買い物や外出には、多くは持たせないが、お金を所持していただき、使える場面を提供している。お金の使用については本人の希望を聞きながら、買い物の際使えるように支援し、また買いたいものを聞き対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状や暑中見舞いを出す支援は行なっている。また利用者の希望によりいつでも電話を掛けて頂いたりまた、手紙をかく事の支援は行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔感を持ち、温度調節に配慮している。窓は大きく風景が楽しめるようになっている。花壇も見え季節感が味わえるような花を植えたりリビングは手作りのものを飾ったり、絵や飾りで季節感を味わうよう工夫している。	共用空間に季節を感じさせる手作りの展示物が多数あり、なごみの雰囲気がある。ホールはレイアウトなど工夫されており、テレビの音量も入居者に配慮し、その都度調整されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士が向かい合って話しが出来るように座席の配慮をしている。またテーブルだけでなくソファもあり、新聞を読んだり、テレビを見ながら談話をしたり寛げるような配慮をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス、写真や思い出の品々等なるべく馴染みの物を持って来て頂いて居心地良く過ごせるよう本人、家族とも話し合っている。	馴染みのタンスを持ち込んだり、希望によりテレビも設置されている。装飾物も本人の希望を取り入れて、賑やかに飾る方もおり、自分らしい部屋となっている。居室にトイレも完備している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険が伴うと分かる行為は、職員が介入し静止しているが、それ以外は一人ひとりが思った通り暮らしていただけるよう声掛けや見守りに徹している。職員は利用者の残存機能を理解し自分で出来る事は促しを行なっている。状況に合わせた環境整備を行い自立支援に繋げている。		